

INAX ギャラリー特別企画展 **10days セレクション**
- 予兆のかたち 10 -

松田直樹展 2008年8月1日(金)～8月12日(火)
アーティスト・トーク 開催 8月1日(金)pm6:00～7:00

山本努展 2008年8月20日(水)～8月30日(土)
アーティスト・トーク 開催 8月20日(水)pm6:00～7:00

「10days セレクション展」は INAX ギャラリー2 が開催している年1回の公募展です。
通常の1ヶ月会期の企画展では出会えない短い会期ゆえに新鮮で刺激的な表現を
広く公募し、1ヶ月会期の企画展と同様のサポートを行います。
今回で**第10回目**となります。
今年は3年ぶりに会場のリニューアルを行い、新たなスペースに **256名**の応募がありました。
その中から**2名**の作家を選んで、ここにご紹介します。

休館日 = 日曜日、8月13日～19日
開館時間 = 10:00 AM～6:00 PM
入場無料
会場 = INAX ギャラリー2
〒104-0031 東京都中央区京橋3-6-18 INAX:GINZA 2 F
TEL03-5250-6530
企画 = INAX ギャラリー

次回予告

田淵裕一(Tabuchi Yuichi)展 (平面)
会期:2008年9月1日(月)～9月26日(金)

松田直樹 (Matsuda Naoki) 展 2008年8月1日(金)～8月12日(火)

松田直樹の作品は、素材を独特に使ったインスタレーションです。隅田川の漂流物を掬い上げ、1個ずつパッキングしたものを並べて116mの川を表現した「流れの眺め」、木工ボンドで自分の指紋をとり、それを花びらに見立て、高さ1.7mの花樹をつくった「シモンバナ(世界にひとつだけの花)」、リング状にした髪の毛を編んだ長さ3mの「ヘア・ドレス」、タバコの吸殻で埋め尽くした「タバコ・ボード」や「タバコ・ロード」、空中から舞い落ちてくるほこりを集めてつくった2.5m四方の「ほこり猫」。いずれも見てびっくり、知ってびっくり、思わず大笑してしまうユーモラスな作品です。

その中でも出色は、ジャコメッティに憧れ、彼の彫刻の独特のマチエールをおびたしい量の納豆を自らの全身に貼り付けることで表現した「歩く男」や、土山に自らを頭部だけ出して埋め込んだ「土に自分」といったパフォーマンスです。

体を張った一見滑稽なパフォーマンスや、髪の毛やほこりといった素材の選択は、見る者に「本当に、こんなことをしてばっかだなあ。」と思わせながらも、心を驚つかみにされる強く静かな力があります。滑稽や風刺のようでありながら、逆に生の賛歌が高らかに聞こえてくるような生命感があります。洒落か、戯れか、機知なのか、見る者を悩ませつつも、やがて笑いに包んで心温かにしてしまう作品です。

最近、松田は食材のことが頭から離れません。今展ではお米でつくった3m四方の家型やエプロン、食器などでインスタレーションが行われます。「なぜ食べられるのか、なぜ家があるのか、なぜ美術を続けてこられたのか」と自問しながら、ピンセットで一粒、一粒15キ口のお米を5ヶ月間かけて貼り付け、完成させます。

お米をモチーフやテーマにした数ある作品の中で、松田の作品からは笑いととも、生きることへの神聖な祈りのようなものが伝わって来きます。



エプロン / レース生地に米 / 96 × 59cm / 2005

[松田直樹プロフィール]

1983 埼玉県生まれ
2007 東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
現在 東京芸術大学大学院美術研究科修士課程在籍

グループ展など

- 2003 壁画プロジェクトボランティア参加(取手)
2004 久米賞展(東京芸術大学)
2005 「彩の会2」(埼玉会館)
GEISAI 7出品(東京ビックサイト)
「納豆展」(デザインフェスタギャラリー 原宿)
「リンゴ美術館展」(ギャラリー彩光舎/アップルミュージアム 埼玉/長野)
取手サイクルアートフェスティバル参加(取手競輪場 取手)
「彩の会3」(ギャラリー彩光舎 埼玉)
2006 「ストリート! 2006」展(Break Station Gallery 上野)
「ほこり猫」(ギャラリーDEX 横浜)
「リンゴ美術館展」(ART LABORATORY R3 群馬)
7 th SICF 出展~グランプリ(スパイラルホール 青山)
高橋藝友会賞展(東京芸術大学)
牛骨展(武蔵野美術大学)
GO!SHIODOME ジャンボリー「汐留アート塾」出展(汐留シオサイト 新橋)
7 th SICF グランプリ展「大和撫子」(スパイラルショーケース 青山)
「Smooth Sailing for BEARING」NSK ベアリングアート展(スパイラル 青山)
2007 東京芸術大学卒業・修了作品展~O氏記念賞(東京都美術館)
SPRING BOARD 2007(Break Station Gallery 上野)
8 th SICF 招待出展(スパイラル 青山)
「見沼の見! 2007」(GREEN ART TEAM 埼玉)
「日没からはじまること」展(東御市芸術村公園 長野)
サステナブルアートプロジェクト2007「事の場」(墨田公園リバーサイドギャラリー 上野)
2008 食と現代美術part4(Bank ART 1929 横浜)
横濱芸術のれん街2(ギャラリー卵甲 横浜)

山本努 (Yamamoto Tsutomu)展 2008年8月20日(水)～30日(土)

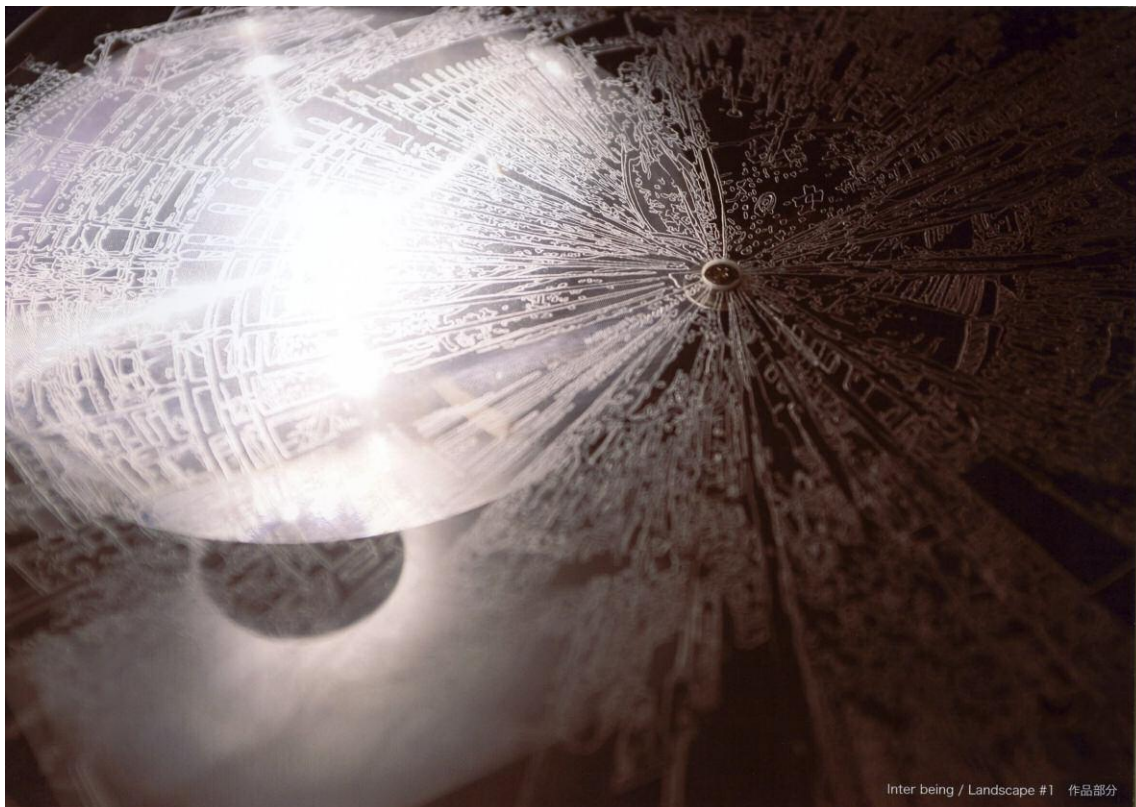
山本努は、光をアクリルに透過させるだけの独自のシンプルな手法で、様々な光学現象を抒情的に表現します。私たちは日常生活の中で、光が変わるだけでそれまでに見えていたものが大きく変貌して見える経験をしています。山本が表すのは夕焼けの茜空、逃げ去る車窓風景、木漏れ日、屋気楼、水面等。ドラマティックな現象の感動から着想し、さらにそこから連想する新たなイメージを重ね合わせて作品化します。

「Inter being」では、樹木図が無数に開けられた穴によってトレースされたアクリル板に、赤、青、黄の光の三原色のライトをあて、夕暮れ時の樹木を表わします。見る者の前にふわっと浮かび上がる光景は、夕空のかすかな赤、青、黄、紫の複雑な色味を含み、ハレーションを再現して透明感に満ちています。逆光の眩しさの中で、瞬きした一瞬が白々とそこに残っているような不思議な体験です。

「Prot drawing/Landscape #1」では、木の葉の重なりと隙間をアクリル板に彫りこみ、それをモーターで動かしたところに、光を投影して木漏れ日を表現します。黄金色に煌々ように強調された光は、ノスタルジックな雰囲気の中に荘厳さが感じられる作品です。

展望台からの眺望をモチーフにした「Prot drawing/Landscape #2」は、光がアクリルとピントのあるレンズを順に通過することで、涙に潤み霞んだような市街地が呼吸するように瞬き、見る者は現実の物質感と人の持つイメージの関係性を再確認します。

山本は京都造形大卒業後、現在東京芸大大学院に在学し、こうした作品の制作を続けています。映像をつくる作家でありながら、TVもVTRも持たないという徹底した姿勢が独自の作風を生んでいるようです。山本の作品は、膨大な記録画像に慣れ親しみ、ともするとリアルとフィクションの境界が曖昧になっている私たちに、人の記憶力がもつ豊かな想像性を改めて認識させてくれます。今展では「Inter being」と、空撮をモチーフにした新作など4点を展示します。



Inter being アクリル板、光 サイズ直径110cm 2007

[山本努プロフィール]

1980 岡山生まれ
2007 京都造形芸術大学美術工芸学科 総合造形専攻 卒業
現在 東京芸術大学大学院 先端表現科 修士2年

グループ展

2004 LOOP exhibition (Gallery 画床 京都)
2004/2005 INDEX # 1 making worlds (art project room kyoto ARTZONE 京都)
2005 ARTBEAT KYOTO 2005 (元・立誠小学校 京都)
トーキョーワンダーウォール 2005 (東京都現代美術館 東京)
2006 呼吸する outline vol .1 (Gallery RAKU 京都)
mesoscopic (Gallery RAKU 京都)
弘益大学創立六十周年記念国際美術展 (現代美術館/弘益大学 韓国 ソウル)
呼吸する outline vol 2 (art project room kyoto ARTZONE 京都)
AMP west (art project room kyoto ARTZONE 京都)
2007 京都造形芸術大学卒業制作展(京都市立美術館 京都)
INTO THE CHAOS (art project room kyoto ARTZONE 京都)
アトラス展 (東京芸術大学 茨城)
取手アートプロジェクト (茨城)
AMUSE ART JAM 2007 (京都文化博物館 京都)
Interbeing(左京郵便局 京都)

受賞歴

2005 トーキョーワンダーウォール 入選
2007 京都造形芸術大学卒業制作展 学科賞 ASP 賞